

# 3

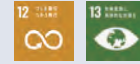
## 千葉大学が誇る学生主体の環境活動

### ～大学から、地域・社会・世界～

千葉大学では、多くの学生が主体的に様々な環境活動を行っています。その活動は大学を出発点に、地域とのふれあい、社会との交流、そして国際的な舞台へと広がりを見せています。近年では海外で表彰を受けるなど、その成果は国内外から評価されています。

- p.38 特集6 千葉大祭における環境活動
- p.39 特集7 墨田区と連携した SDGs 啓発活動
- p.40 企業・行政と連携した SDGs活 動
- p.43 地域社会との環境に関する交流活動
- p.46 国内外における発信・交流活動
- p.48 NPO 法人としての取り組み
- p.49 環境 ISO 学生委員会の 2022 年度の活動状況
- p.50 活動を振り返って

## 千葉大祭における環境活動



大学祭は新型コロナウイルスの影響により、2020年より対面での開催が中止となっていました。2022年は3年ぶりに復活しました。11月4日～6日に西千葉キャンパスで第60回千葉大祭が、5日・6日に松戸キャンパスで戸定祭が、6日に亥鼻キャンパスで亥鼻祭が開催されました。

### ✦ 環境配慮の取り組み

#### エコ容器の導入

環境 ISO 学生委員会の企画により、西千葉キャンパスの大学祭では、サトウキビの搾りかすを原料に用いた環境にやさしい紙容器を、希望する出店団体に使用してもらう取り組みを行いました。通常のプラスチックの容器よりも価格が高いため、差額分をレジぶー基金 (p.30) から拠出して、出店団体が追加の負担なしでエコ容器を導入できるように工夫しました。松戸キャンパスの戸定祭では、使用後に表面のフィルムをはがすことで簡単に回収・リサイクルができる食品トレーである「P&Pリ・リパック」を一部の出店団体に導入しました。



導入したエコ容器の使用例

#### ごみ分別エコステーションの運用

環境 ISO 学生委員会が主導し、学祭の会場内にペットボトルや割り箸、燃えるゴミなどを分別して捨てるゴミ箱を置いたエコステーションを複数箇所設置しました。出店団体からも人員派遣をしてもらい、エコステーションでは来場者に分別方法を説明したり、戸定祭ではリ・リパックのフィルムのはがし方を説明したりしました。また、各エコステーションに出されたごみや出店団体から出たごみは、別途設置した最終集積場に集め、分別を徹底しました。



設置したエコステーション

#### 割り箸の回収リサイクル

千葉大祭のエコステーションで分別回収した割り箸は、洗浄、乾燥させた後で中越パルプ工業に送りました。これらの割り箸は紙の原料の一部となり再利用されます。

### ✦ 環境意識啓発企画

環境 ISO 学生委員会は、環境問題やその対策について学んでもらうのを目的として、「地球温暖化の影響と対策」と「ごみの分別」をテーマに、千葉大祭の部屋企画に出展しました。「地球温暖化の影響と対策」は、千葉大学のマスコットキャラクターであるニシ・イノ・マツと地球温暖化から地球を救うというストーリー仕立てにして、クイズを解きながら脱出するゲームです。「ごみの分別」では、ボールをごみに見立てた玉入れゲームを行い、遊び感覚で分別について考えてもらいました。2つのゲームの高得点者にはエコグッズをプレゼントしました。幅広い世代の方々に参加していただき、来場した小学生からは、「クイズが難しかったけど、環境のことも知れて楽しかった」などの感想をいただきました。



玉入れゲームの様子

#### ちなみに…

今回の大学祭は3年ぶりの開催となったため、どの学生団体も、前回の2019年の時の様子を知っている先輩が少ないという状況の中で、運営や出店を行いました。環境 ISO 学生委員会は西千葉キャンパスのテント企画に出店し、磯辺揚げを販売しました。売れ行きも好調でしたが、店舗の運営を通して、メンバー同士が仲良くなることができ、コロナ禍にはあまりできなかった対面企画の良さを感じることができました。



ISOにちなみ、いそ、磯辺揚げ

## 墨田区と連携したSDGs啓発活動



2021年に墨田区に千葉大学のサテライトキャンパスが誕生したことによって、墨田区とのつながりが生まれ、環境ISO学生委員会の活動の幅が広がっています。

### ✦ クイズ大会と打ち水でエコを学ぶ

8月6日、墨田区社会福祉協議会のすみだボランティアセンターが主催する「2022夏体験ボランティア」の活動メニューのひとつを、環境ISO学生委員会が担当しました。小中学生を対象に、参加者がSDGsや環境に関する問題に取り組み、正解を学生が解説するクイズ大会の後、環境問題を学ぶすろくを学生と参加者が一緒に行いました。後半は、水の大切さや打ち水の効果などを学生が説明した後に、曳舟駅の近くにある遊歩道へ行き、曳舟中町会の方々と合流して打ち水ボランティアを行いました。途中、近くを歩いていた子どもたちも飛び入り参加し、様々な世代を超えた交流をしながら、大いに盛り上がりました。



打ち水の様子

### ✦ 竹害問題について知り、竹とんぼをつくろう

8月7日、「ACTION！すみだSDGsーすみだの“ものづくりワークショップ in 東京ソラマチ@」という墨田区主催のイベントにおいて、子どもを対象に、竹工作を通してSDGsについて学ぶワークショップを実施しました。放置された竹林がもたらす問題やその解決策、竹の有効利用の方法について紙芝居でわかりやすく伝えたのち、放置竹林から間伐した竹を用いて、子どもたちがオリジナル竹とんぼを作りました。



紙芝居の様子

### ✦ 不用コスメをアップサイクルしてクリスマスリースをつくろう

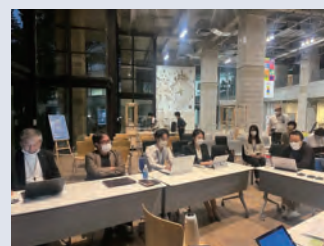
12月4日、墨田区の古民家と墨田サテライトキャンパスで開催されたUDCすみだ主催の「地域と大学つながる古民家～大学のある街の木の下で～」というイベントで、アップサイクルをテーマにワークショップを実施しました。子どもたちは古民家の庭で椎の実や落ち葉、松ぼっくりなどを集め、キャンパスに移動して、色を付けてクリスマスリースを作成しました。色付けには、使わなくなったアイシャドウなどのコスメを特殊な液体で溶かした絵具を使い、アップサイクルを体験しました。また、参加者が持参した着なくなったTシャツをエコバックにリメイクする体験も併せて実施しました。



不用コスメで色塗り

### ✦ 墨田区役所での政策提言インターンシップ

環境ISO学生委員会の3年生が受講できる「環境マネジメントシステム実習Ⅲ」では、学内で環境マネジメントシステムに携わった経験を活かして、自治体や企業でインターンを行う科目です。2021年からは墨田区にもご協力いただき、インターン生を派遣しています。2022年度は、ボランティア講習会への参加、キャンパスの見学、UDCすみだの定例会や跡地利用・まちづくりに関する住民協議会への参加、放射線量の測定などを7月から2月までの半年間、計5回にわたって実施しました。最終回では、インターンシップを通じて気が付いたことを踏まえた政策提言を行いました。受講した学生は、「実際に区役所の方と働いて『まちづくり』のやりがいや難しさを体感するとともに、直接フィードバックを頂いたことで自分を見つめ直すきっかけになりました」と語っています。



UDCすみだ定例会に参加する学生



# 企業・行政と連携した SDGs 活動

環境 ISO 学生委員会では EMS 運用業務や学内での環境活動のほかに、企業や行政と連携したプロジェクトを実施しています。学生だけでは得られない知識・資金・機会を得ることができ、貴重な社会経験になっています。



## 千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト～7色の虹を千葉から未来へ～

環境 ISO 学生委員会と株式会社京葉銀行は、地域への環境負荷削減と環境意識向上に貢献する事を目的に、2017年に協同プロジェクトを発足させました。2022年度は過去最多の80名近くの学生メンバーが、過去最多の17企画に挑戦しました。



学長と頭取への実施報告会の様子

### 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援

京葉銀行からの寄付金をもとに学生を国内外の環境系の会議等に派遣します。2022年度は海外派遣を再開することができ、タイのチェンマイ大学への学生派遣プログラムを実施しました(p.17)。また、他大学で行われた国内会議に2回、国際会議に1回、計14名の学生を派遣しました。

### 学生による『エコアクション21』取得コンサルティング

京葉銀行が紹介する県内企業に対し、環境省の策定したEMSのガイドライン「エコアクション21」の認定取得のためのコンサルティングを学生が行います。2022年度は3社のコンサルティングを実施し、2023年6月に第1号となる株式会社大幹様が認証を取得されました。

### 学生発案の7つの環境貢献企画

地域住民・学生・京葉銀行行員など幅広い層に対して7つの企画で環境やSDGsの意識向上を働きかけます。2022年度は、コロナ禍にオンラインで行っていた活動を対面で実施することができました。また、子どもたちにSDGsについて楽しく学んでもらえるよう、様々なコンテンツを用意した大規模なイベントを開催する事ができました。更に、フェアトレードや防災、フレイル予防、LGBTQ+に関する企画など、環境だけでなく、SDGsに着目した新企画に挑戦する事ができました。

本プロジェクトの Web サイトはこちら  
[https://www.keiyobank.co.jp/ir/eco\\_project/](https://www.keiyobank.co.jp/ir/eco_project/)



## Pick Up!

### 50円均一の古着市を開催 売上を寄付

身近なところからエコを啓発したいという学生の思いから、京葉銀行の行員と千葉大学の学生・教職員から不用になった衣類を回収し、学生が検品・仕分けをしたものを、地域の方向けに1着50円という格安で販売する「CHIBA'S BAZAAR ～古着でつなげるエコの糸～」を10月23日に開催しました。1000着以上の衣類が出品され、当日の来場者は約500人と盛況でした。800着以上が売れ、4万円以上売上はコロナ対策のために、千葉大学医学部附属病院と千葉県に寄付しました。残った古着はこども食堂に寄付するなど活用しました。



イベントの様子

### 体験を通じて持続可能な漁業・養殖業を考える

学生が体験を通じて持続可能な漁業・養殖業について考え、発信していくことを目的に、7名の学生が9月21日、千葉県鋸南町の畑でバナメイエビの養殖を行っている株式会社 Seaside Consulting を訪問し、日本における養殖業の課題、同社の地球環境改善に向けた想いや取り組みについての講演を聞いたのち、陸上養殖場の施設を見学しました。漁獲量の減少や海洋汚染、マングローブ林の減少など、さまざまな問題に直面している中で、環境保全へのアプローチとして、農地での漁業を決断した話を聞き、参加した学生はとても刺激を受けました。その後、体験で学んだことを記事にまとめて発信したほか、翌年3月にはエビの稚魚を受け入れる作業を手伝うなど、学生にできることを継続して実践しています。



体験をしている学生

## 🔗 ファッションとサステナビリティ ～ ZOZO との協同プロジェクト

環境 ISO 学生委員会は、2022 年度に株式会社 ZOZO との協同プロジェクトをスタートしました。「ファッションとサステナビリティ」をテーマとして、ファッション分野の課題について学び、課題解決に貢献する取り組みを行うことを目的に、ダイバーシティ・環境・人権・文化という 4 つのグループに分かれて活動を行っています。例えば、環境のグループでは、現状の環境問題を知ることや経験することに重きを置き、ペットボトルのリサイクル工場の見学や大学周辺のごみ拾いを行いました。SDGs 達成への貢献や様々な環境問題・人権問題などに対する意識の向上、誰もが暮らしやすい地域づくりを目標に今後も活動していきます。



ZOZO の本社にて集合写真

## 🔗 企業の環境貢献技術を学ぶ ～エプソン販売株式会社との協同プロジェクト

環境 ISO 学生委員会は、2022 年度からエプソン販売株式会社との協同プロジェクトを実施しています。本プロジェクトのテーマは「共創」であり、企業と学生という異なる立場の者たちが協働し、多面的に社会問題を捉え、より良い解決方法を共に創り上げることが目的としています。2022 年度は、「エコセッション」と称した活動を 2 度、オンラインと対面で行い、エプソン販売株式会社の最新技術を駆使した環境貢献をレクチャーしていただいたり、学生側から同社の製品・サービスを用いた環境貢献案を提言したりしました。2023 年度は、学校現場や他企業とも関わりを広げ、より多くの人と環境について考えることができる空間を共に創り上げていきます。



オンラインエコセッションの様子

## 🔗 企業と学ぶ ISO14001 ～スリーエーコンサルティングとの協同プロジェクト

環境 ISO 学生委員会は、2022 年 5 月に ISO の取得・運用・更新のコンサルティングを行う株式会社スリーエーコンサルティングと「ISO14001 × SDGs」をテーマにしたプロジェクトを発足しました。ISO14001 が実社会でどのように活用されているのかを学ぶことを目的として、同社を見学して意見交換をしたり、顧客の内部監査やコンサルティングに同行させていただいたり、同社と学生が相互にセミナーを行ったりしました。さらに、同社の顧客を学生が取材して、ISO14001 × SDGs の導入事例集を執筆しました。様々な業種の企業の方々と関わり、ISO14001 の取得・保持の難しさや環境問題への向き合い方など興味深いお話を伺い意見交換をするという、貴重な経験をすることができました。座学だけでは感じるることのできない実社会での ISO 規格の取得への意識の高さを体感し、ISO 規格や SDGs をより多くの人々に発信していく必要があると自覚するきっかけになりました。



同社訪問時の様子

## 🔗 新入生に紙製クリアファイルをプレゼント ～三菱王子紙販売株式会社との協同プロジェクト

環境 ISO 学生委員会は、2015 年から三菱王子紙販売株式会社との協同プロジェクトを実施しています。2022 年度は、新入生に向けた環境意識啓発を目的として、「A Plastic-Free Society」というメッセージを入れた学生のオリジナルデザインの紙製クリアファイルを、2023 年 4 月の入学式で学部新入生に配布しました。このファイルは、適切に管理されている森林から伐り出した木材に与えられる FSC 認証を受けた紙で作られており、紙資源としてリサイクルも可能です。学生委員が、三菱製紙グループの「エコシステムアカデミー」の FSC 認証に関する講義を受けたり、株式会社ディーソルの紙製ファイル製作工場を見学したりして学んだことを、ファイル製作に取り入れることができました。新入生の皆さんが、脱プラスチックや SDGs、FSC 認証に意識を向けるきっかけをつくることのできたのではないかと思います。



新入生に配布したクリアファイル



## みんなでSDGs ちば食農体験プログラム ～千葉テレビ、そごう千葉店との協同プロジェクト

環境 ISO 学生委員会は、千葉テレビ放送株式会社とそごう千葉店との産学連携により、地域の子どもたちに食育を通じて、食・環境保全への理解を深めてもらうプロジェクト「みんなでSDGs ちば食農体験プログラム」を、2022年5月から年間通じて展開しました。親子で参加できるワークショップを全6回実施し、学生たちは各ワークショップの立案や講師の役割を担いました。6月と11月には、小学校低学年向けに、千葉県の野菜や魚に関する問題を出題し、正解だと思う野菜や魚のイラストのパネルをゲーム感覚で選ぶ「野菜レース」を実施しました。クイズを作成する中で学生自身も学ぶことができました。7月と2月には、



3社の代表者が集まったキックオフ会合の様子



ワークショップの様子

小学校中学年向けに、フルーツバスケットをモデルにした、千葉県の野菜に関する「野菜バスケット」を、10月と3月には、小学校高学年向けに、果物の皮を利用した「フレグランス作り」を実施しました。年齢層に合わせた内容になるよう小学生目線で考え、試行錯誤を繰り返しました。本プロジェクトを通して、食べ物に感謝して、自分の食事に対する態度を振り返る機会となつてほしいと思います。そして、食べるのが大好きな子どもたちが増えてほしいです。

## 海ごみ問題について考える ビーチクリーン活動 ～パソナとの協同プロジェクト

環境 ISO 学生委員会は、2022年に株式会社パソナグループとの協同プロジェクトを開始し、学生や地域の方々を対象とした環境意識啓発イベントを企画しました。9月には稲毛海岸でビーチクリーンイベントを実施し、12名の参加者と一緒には和気あいあいとした雰囲気の中、浜辺の清掃活動と拾ったごみでのアート作品づくりを行いました。完成した作品は、学生委員会が10月に主催した古着市やこどもエコまつりで展示しました。また、2月に開催した「Chiba Winter Fes」では、本プロジェクトのブースを出展し、SDGsの17の目標に関するクイズを実施し、小学生からご年配の方まで78名の方に参加していただきました。参加者からは、「これは知らなかった」「驚いた」という声もあり、SDGsへの関心を高めることができたと感じました。



ビーチクリーンの様子

## ペットボトルキャップとミニティア容器の回収 ～アサヒグループジャパンとの協同プロジェクト

環境 ISO 学生委員会は、アサヒグループジャパンのプロジェクト「MUP (Mottainai UPCYCLE PROJECT)」に参加し、2021年より西千葉キャンパスでペットボトルのキャップとミニティアのケースの回収プロジェクトを実施しています。リサイクルを促進し、アップサイクルに対する意識を高めることを目的に、キャンパス内の3か所に回収ボックスを設置し、定期的に回収しています。2022年度は回収したキャップとミニティア容器をアップサイクルして、ボールペンを製作しました。



回収ボックス

## VTuberの動画配信で環境意識啓発 ～千葉市地球温暖化対策地域協議会 次世代分科会

環境 ISO 学生委員会は2016年度から千葉市地球温暖化対策地域協議会<sup>※</sup>「次世代分科会」の一員として活動しています。2022年度は小中学生を対象とした環境啓発動画を作成しました。出演キャラクターとして、一般社団法人ナレッジキャピタルにご協力いただき、社会見学系VTuber(バーチャルYouTuber)の黒湖たからを起用しました。取材場所の選定から、台本作成、撮影、編集まで、すべてに学生が関わりました。完成した動画は、YouTubeチャンネル「千葉市地球温暖化対策地域協議会事務局」にアップしています。



© ナレッジキャピタル

※ 千葉市地球温暖化対策地域協議会：千葉市の特性に合わせた地球温暖化対策を推進するために、2004年より市民・事業者・行政が一体となって様々な取組みをおこなっている団体

## 地域社会との環境に関する交流活動

学生たちは地域社会に対するさまざまな環境貢献活動や交流活動を継続的に行っています。また、学生主体の取り組みについて他大学や市民に対して積極的に発信する活動も行っています。



### ❏ Chiba Winter Fes 2023 ～未来につなぐ17の輪～

「Chiba Winter Fes 2023」は、環境 ISO 学生委員会が環境・SDGs 啓発を目的として2017年度より開催しているイベントです。2022年度は「世界一やさしいSDGs 啓発イベント」を目指し、2023年2月19日に開催しました。当日は子どもからシニアの方まで約650名の方にご来場いただき、様々な企画や展示を通してSDGsについて考えてもらうことができました。

本年度は扱うテーマを「環境」から「SDGs」啓発に広げ、昨年度より幅広い企画に取り組みました。大ホールでは、お笑いタレントのお侍ちゃんによる「笑って学ぶSDGs」の講演や、SDGsビンゴ大会、減災に関する講演会、千葉大学の部活・サークルによるパフォーマンスを実施しました。企業出展ブースでは、15の企業・団体が環境や災害、働き方などに関する展示を行いました。飲食ブースには千葉大学周辺の飲食店や、「千産千消」をテーマにしたお店にご出店いただきました。また、工作や出張授業などのワークショップ、子ども向けのゲームコーナー、フリーマーケット、ウォークラリーなども開催し、来場者が楽しみながらSDGsについて学べるイベントとなりました。



イベントポスター

イベント公式ホームページ：<https://chibawinterfes2023.studio.site/>

実施報告書：[https://www.chiba-u.ac.jp/others/topics/info/sdgschiba\\_winter\\_fes\\_202317.html](https://www.chiba-u.ac.jp/others/topics/info/sdgschiba_winter_fes_202317.html)

### ❏ コミュニティガーデンの運営

環境 ISO 学生委員会は、敬愛大学のボランティアサークルちばくりん敬愛支部と共同でコミュニティガーデン※「ちーあいふれあいの庭」を運営しています。千葉市の「花いっぱい市民活動」の花苗の助成を活用して、毎年春と秋に、花植えイベントを実施し、地域の方々と一緒に季節の花を植えています。花壇の肥料には、環境 ISO 学生委員会特製の「けやきの子」(p.30)を使用しています。学生委員会は年間通じて定期的に花壇整備を行っており、散歩中の方が声をかけてくださることもあり、地域の方の目に留まる花壇になっていることを実感しています。



秋の花植えイベント

### ❏ 地域の街路樹のアガパンサス整備に協力

環境 ISO 学生委員会は、地域との連携を深めることを目的に、毎月第3土曜日に NPO 法人 Drops のの方々と一緒に花壇整備を実施しています。西千葉キャンパスの正門から京成みどり台駅へと続く道にあるアガパンサスの植え込みで、雑草取りや落ち葉拾い、ゴミ拾いを行っています。地域の方々も参加しており、お話をしながら作業するなど、交流を深めながら楽しく活動しています。また、この活動は NPO や地域住民の方が主体となったまちづくりについて学生が学ぶことのできる場にもなっています。



整備の様子

※ コミュニティガーデン：行政ではなく、地域の住民等が主体となって、公園の一角や地域の遊休地を利用して、趣味や学習、環境保全などを目的に、花や野菜を育てる活動のこと。

編集担当：長谷川佳恵（園芸学部3年）、古谷那奈（教育学部2年）、鈴木優華（法政経学部3年） 深瀬愛彩音（法政経学部2年）



## 地域広報誌「いそちゃんだより」の刊行

環境 ISO 学生委員会は地域広報紙「いそちゃんだより」を作成し、西千葉キャンパス近隣の自治会の回覧板や Twitter、HP に載せて広報しています。2017 年度より発行しており、2022 年度は 8 月に発行しました。掲載内容の検討から執筆、レイアウト、デザインの作成まですべて学生が行っています。地域住民を対象としたイベントや学生委員会の活動紹介、省エネ豆知識などをしており、地域の方に学生委員会のことを知ってもらうと同時に、環境意識の啓発も図っています。



全 4 ページの広報紙

## 西千葉の古き良き名店を巡ろうマップ

千葉大学周辺の飲食店を応援しようと、環境 ISO 学生委員会ではコロナ禍の 2020 年から様々なテーマで飲食店を特集したマップを作成して、地域に配布しています。2022 年度は、「老舗」に注目し、学生委員がオススメする創業 25 年以上の飲食店 6 店舗取材した「西千葉の古き良き名店を巡ろう」マップを作成しました。企画の立案から取材、デザイン、広報等を約 8 か月かけて行いました。店主からの一言メッセージを載せるなど、店主の想いが伝わる工夫をしました。今回作成したマップは、掲載店舗や近隣自治会の回覧板、町の掲示板、SNS を活用して配布・掲載を行いました。



今回作成したマップ

## 「エコメッセ 2022 in ちば」にブース出展

千葉県最大の環境活動見本市である「エコメッセ 2022 in ちば」が 2022 年 10 月 23 日に幕張メッセで開催されました。環境 ISO 学生委員会は、委員会活動を紹介するパネル展示と環境に関するカードゲームなどを行うブースを出展しました。子どもから大人まで多くの方に広報することができました。また、会場内の他の出展団体の企業や行政機関のブースに赴き、積極的に交流したことで新たなつながりが生まれ、今後の活動を発展させるきっかけをつくることもできました。



ブースの様子

## 「エコプロ 2022」にブース出展

国内最大級の環境イベントである「エコプロ 2022」が 12 月 7 日から 9 日の 3 日間、東京ビッグサイトで開催され、環境 ISO 学生委員会はブースを出展しました。パネル展示や資料配布により、学生委員会の様々な活動を広報したほか、子どもたちには環境について楽しく学んでもらうために、コリントゲームと〇×迷路を作成しました。大人と子ども合わせて約 200 人がブースを訪れ、説明に耳を傾けていました。



ブースの様子

## やさいお絵描きで食育ワークショップ

環境 ISO 学生委員会は、7 月 17・18 日にテラスモール松戸で行われた「つながるマルシェ」において、「親子で参加！やさいお絵描き」というワークショップを開催しました。親子を対象に「食育」のテーマのもと、「フードロス」、「園芸療法」について学び、体験できるものとなりました。実際の食べ物を見て、触れて、感じることで、より本物に近いもの描くことができ、そこから想像を膨らませて描くことで個性をより伸ばすことにつながりました。普段食べるものに関心を持つことにより、身の回りの環境について考えてもらう体験の機会を作ることができました。



作品例：熟れたバナナ（モチーフはさつまいも）



## 🔗 稲毛区民まつり」にブース出展

環境 ISO 学生委員会は、10月16日に穴川中央公園で開催された「稲毛区民まつり」にブース出展しました。子どもたち向けには環境やSDGsについて楽しく学んでもらうため、海や川の生き物を守ることをテーマにして、生き物スタンプを使ったエコバック作りと、生き物の環境を改善する射的ゲームを行いました。約200名の方が訪れ、環境意識の啓発を図ることができました。



エコバックづくり

## 🔗 子ども向けに海の環境教室を実施

10月に稲毛海浜公園いなげの浜で開催された「ジャパンビーチゲームズ® フェスティバル千葉2022」に参加し、小学生の親子を対象とした環境教室を実施しました。海の環境問題に興味・関心を持ってもらうことを目的に、本物の海洋ゴミを使った紙芝居の上演と、貝殻ストラップ作りを実施し、2日間で約140名の方々にご参加いただきました。



貝殻ストラップづくり

## 🔗 海とSDGs 関連の展示会に参加

環境 ISO 学生委員会は、年9月26日～10月15日に東京新聞本社ロビーにて開催された「海・循環・再生」展示会に参加しました。「プラスチックごみ削減の取り組み」として、米ストローを導入した活動 (p.29) や、レジぶー基金を使ったエコグッズの作成・販売活動 (p.30)、紙製クリアファイルの配布活動 (p.41) などについて、実物を展示して紹介しました。また、「海を守るための取り組み」として、ビーチクリーン活動、海のエコ教室活動などについて紹介しました。



展示の様子

## 🔗 魚釣りゲームで分別意識の啓発

環境 ISO 学生委員会は、10月10日に千葉県西部防災センターにて開催された「防火・防災フェスティバル」に参加しました。親子連れの来場者が多いことから、魚釣り分別ゲームを行いました。これは、牛乳パックで作った魚と、缶やペットボトル等のごみを参加者が釣り竿で釣って、松戸市のルールに基づいて分別するゲームです。このイベントを通して、地域住民との交流を深めるとともに学生委員会の活動を広めることができました。



魚釣り分別ゲームの様子

編集担当：西谷早紀（教育学部3年）、金澤瞭（工学部3年）、神谷有咲（法政経学部4年）、勝田真一（園芸学部4年）

## 国内外における発信・交流活動



環境 ISO 学生委員会は学生主体の EMS や SDGs の取り組みを、国内外の大学などに向けて発信することで、持続可能な社会の実現に貢献しています。

### ASCN2022 年次大会にて優秀賞を受賞

「ASCN (Asian Sustainable Campus Network)」の 2022 年次大会が、11 月 24 日に北海道大学で開催され、日本、タイ、中国、韓国の 4 カ国から教職員や学生が集い、活動発表や交流が行われました。環境 ISO 学生委員会からは 3 名が参加し、「企業と連携したサステナブル活動～環境から SDGs への展開～」と題して、企業と連携した SDGs へのアプローチについて英語で発表しました。4 カ国 9 大学 12 団体の学生発表があり、審査の結果、優秀賞である EXCELLENT AWARD を受賞することができました。



授賞式の様子

### CAS-Net JAPAN 2022 年次大会での発表

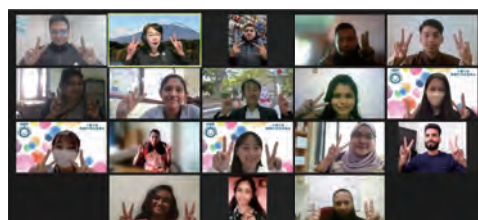
12 月 3 日に三重大学で対面とオンラインのハイブリット式で開催されたサステナブルキャンパス推進協議会「CAS-Net JAPAN (Campus Sustainability Network in Japan)」の 2022 年次大会において、環境 ISO 学生委員会の学生が、事例発表の分科会で発表を行いました。千葉大学の環境マネジメントシステムの運用や、「千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト」、「環境 ISO 学生委員会× ZOZO 協同プロジェクト」の活動事例 (p.41) を紹介しました。また、三重大学のキャンパスツアーや懇親会にも参加し、他大学で活動をしている学生と交流し意見交換ができたことは、非常に大きな刺激になり、自分たちの活動を振り返るとともに視野を広げる良い機会となりました。



発表の様子

### 対日理解促進交流プログラム「JENESYS」

対日理解促進交流プログラム「JENESYS」の一環として、アジア諸国との交流会がオンラインで 2 回行われました。1 回目の 7 月には ASEAN 諸国及び東ティモールの学生・社会人約 30 名、2 回目の 11 月には南アジア地域協力連合の加盟国出身学生・社会人約 20 名と交流しました。環境 ISO 学生委員会は日本の学生の代表として、学生主体の EMS 運営の仕組みやさまざまな活動について発表しました。また、各国の SDGs の取り組みと現状について意見交換したり、参加者同士でスコアを競う SDGs オンラインクイズを楽しんだりして、交流を深めました。



オンラインでの交流会の集合写真

編集担当：阪本活美（法政経学部 2 年）、戸井田俊介（園芸学部 3 年）、鈴木ほの香（理学部 3 年）

## 第 16 回環境マネジメント全国学生大会で三重宣言を作成

環境活動に取り組む全国の学生団体が集い、互いの活動報告や意見交換を行う「環境マネジメント全国学生大会」の 2022 年次大会が、6 月に三重大学で開催されました。3 年ぶりに対面での開催となり、環境活動に取り組む全国の 9 大学 12 団体から 80 名以上が集まり、環境 ISO 学生委員会からは対面 10 名、オンライン 4 名が参加しました。基調講演のほか、それぞれの活動報告や意見交換、分科会で SDGs に関するディスカッションを行いました。また、本大会の成果として国際的な視野で SDGs 達成に向けた取り組みを実行していく「三重宣言」を参加者全員の議論の上、合意しました。



ディスカッションの様子

## 日本工業大学の授業でゲスト講師を担当

6 月に環境 ISO 学生委員会の学生 3 名が日本工業大学の「環境の社会学」という授業でゲスト講師を担当する機会があり、90 分の授業の一部で委員会の活動紹介と学生同士のパネルディスカッションをしました。受講生からの質問を受け、環境活動に取り組む意義を改めて考えさせられ、同世代の学生が活動していることに刺激を受ける機会となりました。また、授業の前後には職員の方にキャンパスツアーをしていただき、学内に給水機が設置されていたり、太陽光パネルに覆われているデザイン性高い建物があつたりと大学独自の取り組みが印象的でした。



授業の様子

## 千葉県環境基本計画普及啓発セミナーで発表

12 月 27 日に千葉女子高校にて開催された「千葉県環境基本計画普及啓発セミナー」に、環境 ISO 学生委員会から 2 名が参加しました。前半では環境カウンセラー関根久仁子さんの、SDGs の目標 12「つくる責任、つかう責任」についての基調講演を聞きました。後半では各団体の活動発表や意見交換がありました。環境 ISO 学生委員会の発表に対しては、多くの企業と連携して様々なことを行っている点に関心が寄せられました。他大学や高校からは古着の配布や教室の断熱化などが紹介され、今後の活動に活かせる学びを得ることができ、新たな繋がりを生むことができました。



セミナー参加者の集合写真

## 千葉西高校卒業生に対してリユース意識の啓発

「千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト」で古着市を行ったことをきっかけに、千葉県立千葉西高等学校と協同して、制服のリユース活動を行いました。環境 ISO 学生委員会の活動経験を活かして、制服リユースを呼びかけるためのサイトの作成、集会で呼びかける原稿の作成などを行いました。サイトでは、制服リユースの重要性を伝えたほか、学生にインタビューした「日常のエコアクション」を掲載しました。



サイトの一部 企



# NPO 法人としての取り組み

環境 ISO 学生委員会は、学内の EMS 運用で培った知識や経験を地域に還元するため、2009 年に NPO 法人格を取得しました。大学組織としての位置づけとは別に NPO としての顔を持ち、地域と連携した活動を積極的に行っています。NPO の理事長も役員もすべて学生によって構成されているのが特徴です。



## 環境教育事業「エコ教室」

未就学児から小学生を対象に、「SDGs」や「環境に配慮した行動」について学ぶことができる教材の開発と、ワークショップの実施を行っています。2022 年度は商業施設や公民館からの依頼に合わせて新たに教材を数種類開発しました。教材では消費行動や 3R、アップサイクル、身近な植物等を扱い、楽しみながら学びが得られることを目指しています。4 月と 11 月には市川市のニッケルトンプラザにて、「葉っぱ図鑑をつくろう」「しょくぶつくイズラリー」を、7 月には千葉県船橋市の八木が谷公民館にて「地球を守ろう!! アクティブキッズ! エコ教室」の 1 回を担当し、「環境にやさしい買い物をしよう!」を実施しました。



エコ教室の様子

## 環境活動推進事業

長年、学生が主体となって大学の環境マネジメントシステム (EMS) を運用してきた経験や知識を活かし、他大学や法人の環境報告書に掲載される第三者意見の執筆を行っています。2022 年度は、環境再生保全機構 (ERCA) の環境報告書の第三者意見の執筆を行ったほか、8 月には量子科学技術研究開発機構 (QST) の環境報告書の意見交換会に参加し、SDGs の講習会の講師を担当しました。



意見交換会の様子

## 植樹里山保全事業

### “K”LINE の森・海岸清掃活動

川崎汽船株式会社と里山協定を結び、2012 年から成田国際空港付近の“K”LINE の森を整備してきましたが、コロナ禍をきっかけに活動が中止となり、代わりに 2021 年度からは稲毛海岸の清掃活動を行い、企業の方と共に海辺の環境保全活動を推進しています。多くの人に里山や海岸の環境の重要性について知ってもらえるような機会を作ることを目標に、2023 年度は、新しい場所での清掃活動や里山保全事業について企業の方と話を進めております。



海岸清掃の様子

### 高尾 100 年の森プロジェクト

「高尾 100 年の森」プロジェクトは、佐川急便株式会社が所有する高尾の森林約 50 ヘクタールを対象に、地域の方々や大学生、企業などの協働による里山管理という新たなスタイルによって「100 年」という言葉に象徴される、ゆったりとしたタイムスケールで整備・保全活動を進めようというものです。月に一度、整備のお手伝いをしながら森に生息する動植物の観察も行っています。



間伐の様子

# 環境 ISO 学生委員会の 2022 年度の活動状況

学生委員会では年間を通じて学内および地域、海外に向けて環境改善や SDGs 達成に向けたさまざまな活動を実施しています。2022 年度は対面とオンラインの両方で多様な環境活動を実施しました。

★印は「千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト」(p.40)の活動です。

月	活動内容	該当ページ
4	環境 ISO 基礎研修講師	13
	入学式で新入生に紙製ファイルをプレゼント	41
	学生委員会新メンバー募集活動 (オンライン)	-
	レジふー企画でオリジナル SDGs エコバック販売開始	-
5	ちーあいふれあいの庭 春の花植えイベント	43
	中古自転車譲渡イベント	31
	堆肥化勉強会	30
	構内の環境スポット確認巡り	-
6	クールビズポスター作成・SNS 発信	27
	「千葉大生×スリーエーコンサルティング SDGs プロジェクト」発足	41
	★2021 年度企画会議	40
	エアコンフィルター清掃活動	27
7	MINTIA& キャップアップサイクル活動回収開始	42
	生協での米ストロー本格導入	29
	古本市の開催	29
	第16 回環境マネジメント全国学生大会への参加	47
8	省エネ省資源イベントの開催	27
	SDGs と世代間衡平・世代間格差に関する小冊子の作成・展示	-
	松戸の商業施設のイベントでワークショップ開催	44
	JENESYS2022オンライン訪日プログラムへの参加	46
9	地域向け広報紙「いそちゃんだより」発行	44
	墨田区にて「2022 夏体験ボランティア」でワークショップ	39
	墨田区主催イベントでワークショップ実施	39
	千葉大学サステナビリティレポート 2022 を発行	13
10	環境 ISO 内部監査員	58
	東京新聞本社にて海と SDGs 関連の展示会に参加	45
	★企業向け環境セミナーの開催	40
	★農業・漁業体験プログラムへの参加	40
11	海岸清掃活動	48
	ちーあいふれあいの庭 秋の花植えイベント	43
	シェアサイクル COGOO の清掃活動	31
	★フェアトレード啓発ぬりえ絵本・リーフレット配布	56
	★竹林整備活動	40
	★こどもエコまつり開催	40
	★CHIBA'S BAZAAR ~古着でつなげるエコの糸~開催	40
	ジャパンビーチゲームズ @ フェスティバル千葉 2022 に出展	45
	防火・防災フェスティバルに出展	45
	稲毛区民まつりに出展	45
エコメッセ 2022in ちばに出展	44	

月	活動内容	該当ページ
11	構内の環境スポット確認巡り	-
	ウォームビズのポスター啓発開始	27
	大学祭での環境対策および部屋・テント企画実施	38
	育てて緑化フラワープランター企画	32
12	★フードロス削減啓発リーフレット配布	40
	★エコ発信局 (環境啓発記事公開)	40
	ASCN 2022 年次大会への登壇	46
	環境 ISO 外部審査の議事録作成	13
	「千葉大学環境エネルギーマネジメント実務士」資格認定式	14
	寄せ植えイベント開催	-
	太陽光によるイルミネーションイベント	-
	マップ「西千葉の古き良き名店を巡ろう」配布開始	44
	墨田サテライトキャンパスにてイベント開催	39
	ミックス古紙回収量調査	28
1	★里山保全活動体験	40
	サステナブルキャンパス推進協議会 2022 年次大会に登壇	46
	エコプロ 2022 にブース出展	44
	次年度の環境 ISO 基礎研修パンフレット作成、研修準備開始	13
2	次年度のキャンパス環境目的・環境目標・実施計画原案作成	13
	落ち葉堆肥「けやきの子」販売会	30
	Chiba Winter Fes 2023 の開催	43
	★企業向け環境・SDGs 教室の開催	40
3	中古自転車の回収活動	31
	★2021 年度実施報告会	40
	★タイ・チェンマイ大学への留学プログラム実施	17
	Drops 主催のアガパンサス整備への参加	43
通年	緑のカーテン作製活動	32
	落ち葉を使用した堆肥の作製活動	30
	NPO 法人千葉大学環境 ISO 学生委員会の活動	48
	コンタクトレンズの空ケースの回収	30
	★エコアクション 21 取得コンサルティング	40

## 活動を振り返って～環境 ISO 学生委員会の委員長と卒業生より～

環境 ISO 学生委員会は「西千葉・亥鼻地区」（2003 年創設）と「松戸・柏の葉地区」（2006 年創設）に分かれています。執行部は 3 年生が務め、毎年 12 月に代替わりします。3 年生まで活動して実務士（p.14）の資格を取得して卒業した学生は 600 人以上いて社会に出て活躍しています。

### 西千葉・亥鼻地区 19 代目委員長 理学部 4 年 長谷川綾香

2022 年度は新型コロナウイルスによる活動規制が少しずつ緩和されて、対面でイベント開催することが可能になり、安全に実施するためにはどうしたらよいかをメンバーで考えました。感染対策はガイドラインやマニュアルに従って行う必要があります。例年よりも工程が一つ増えるため、スケジュール管理を徹底し、余裕をもって行うことを心がけました。今後はさらに対面活動が増えると思いますが、オンラインの良さを知っているメンバーなので、両方を上手に併用して活動していただければと思います。また、委員会運営面では、学生委員会は様々な企画が同時進行で行われるため、個人の活動量と人手に関するアンケートを行い、活動量の偏りが出ないように割り振りを改善しました。最後になりますが、日頃より学生委員会の活動にご協力いただいている教職員の皆様や地域の方々に、深く御礼申し上げます。今後も様々な企画を実施してまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。



### 松戸・柏の葉地区 17 代目委員長 園芸学部 4 年 関口真輝

2022 年度松戸・柏の葉地区では、新しい活動をするということに重きを置きました。特に大きなものとしては、商業施設でのイベント開催（p.44）やカイロの再利用に関する研究、樹木調査などです。委員会運営面では、Teams で学生委員会用のグループを作成して共有ファイルを見える形にし、連絡を密に行うことを工夫しました。今後は、2022 年度に広げた活動を発展的に継続していくことができると考えています。具体的には、カイロの再利用に関する研究の実用化や、対面イベントを増やし、地域の方や学生がみんなで行う活動の幅を広げたいです。最後に、環境 ISO 学生委員会では、ここでしかできない活動を経験する機会が多くあります。後輩たちにはこれらの活動に積極的にチャレンジして、自身の成長に繋がる機会として活かしてほしいと思います。

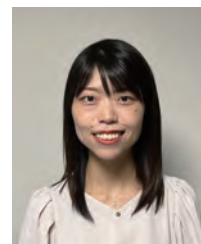


### 卒業生インタビュー 三津山京さん 2017 年園芸学部卒業、昭和産業株式会社入社

私が学生委員会で力を入れていたことは班活動です。構内事業者班の班長として班活動を活性化させたいとの思いから、それまで夏にしか行っていなかった省エネイベントを、冬にも行うことを提案しました。イベントではリユース食器を活用した飲食物の配布や近隣の飲食店との共同企画などを行いました。

イベントを通して、多様な価値観や考え方を持つ仲間と協力する難しさを実感し、目的を明確にして、仲間とイメージを共有しながら企画を進める大切さを学びました。

現在勤めている食品メーカーでは、人材戦力部で採用などの人事企画業務の担当をしています。誰もが最大限に能力を発揮できる職場を目指して、特に女性活躍や子育て支援に



力を入れていきます。さらに、採用活動を通して当社の取り組みを発信し、当社が目指す健康で豊かな社会の実現に共感を示してくれる方々を採用することで、SDGs へのさらなる貢献に寄与できると考えています。

SDGs どの業界でも合言葉となる現在、学生委員会の活動を通して身に付けた環境への意識は必ず役立ちます。また、学生主体で取り組むからこそ、変化を恐れず行動し続けること、そして、自分たちで考え +  $\alpha$  の価値を生み出すことの重要性を学ぶことができます。私はこれらのことを今も大切にしながら、日々仕事に取り組んでいます。



2014 年に実施した冬の省エネイベントの様子